

## 人間文化学部 健康科学科 2年 S.S.

私のハワイでの2週間は、自分の話す英語がある程度通じることができると実感でき、また異文化に触れる楽しみ知った二週間だった。

特に印象に残っている出来事は、ハワイ大学のプログラムに含まれていた「インターチェンジ」というハワイ大学の学生と約1時間対話をするプログラムである。基本、ハワイ生1人に対して県大生が2人という組み合わせで合計3回行ったが、そのうちの1回だけ人数が合わず、私はハワイ生と1対1で話す機会を得た。その時、相手の学生が日本のサブカルチャーに詳しく趣味も似ているところもあったためか、約1時間ほぼ途切れることなく会話を続けることができた。そのときの会話はきれいな文ではなかったが、会話が成立したことに大きな自信がついた。

また自由時間では、前日の夜に友人とハワイのガイドブックを広げては、行きたいところをリストアップし計画を立ていった。特に1日自由行動できた3日間は、ダウントウン周辺にあるイオラニ宮殿やセントアンドリウス教会などの建築物を見るために1日中歩き回ったり、朝早くからバスに乗ってノースショアのドール・プランテーションやハレイワのビーチを見たり、最終日にはカイルアビーチに行ったりと、時間がある限りオアフ島をめぐるにめぐった。この経験から、海外に行くときまたは国内旅行であっても、事前に計画を立てることは大切であり、また事前に調べておくことで実際見たときの感動がより強くなることを実感した。

この2週間で大きく変化したと思うことが2つある。まずは英語を使う抵抗がなくなったことである。一番大きな理由は、先ほど書いたインターチェンジでの出来事であったが、加えて、自由行動が多かった分、聞かないと分からないことあったため、通りすがりの人に声をかけ道を教えてもらったりすることで、以前よりずっと抵抗感がなくなった。もう1つ変化したことは、興味の幅が広がったことである。ホノルル美術館にあった芸術品やハワイの建物、そしてビショップ・ミュージアムで知ったハワイやポリネシアンの歴史など、どれも刺激的でもっと知りたいという好奇心が広がった。

このハワイでの2週間は私にとって充実した2週間であった。以前、高校2年生の時ニュージーランドでの2週間のホームステイに参加したが、そのときはホストファミリーにうまくなじむことが出来ず、英語を使う頻度も少なく、少し海外に対して抵抗をもったまま帰ってきた経験があった。今回、ハワイと日本人が利用しやすいところで、かつ、自由時間が多かったため、のびのびであったが刺激的な毎日で非常に充実した2週間で過ごすことができ、参加してよかったと本当に思った。おかげで、海外（英語）に対する抵抗感がなくなった。しかし、通じたといったものの単語と単語を繋ぎ合わせたような会話文でしか話せていなかったのは事実である。これからは、せつかく海外で過ごす楽しみを知ったので、海外旅行しても不自由することのない英語の力、そして現地の人とフランクな会話がスラスラと出来るぐらいの英語の力を身につけるために、英語に触れて学ぼうと思

う。

来年このプログラムに参加する人へのアドバイスとしていえることは、就職のため、英語のスキルを上達させるためなどといった理由がなく、ただ海外に行ってみたいという気持ちがあれば、このプログラムにぜひ参加するべきだと思う。そうすれば、少なくとも海外に対する抵抗感はなくなり、新たな好奇心が芽生えていくと思う。

来年、今年のようにハワイで2週間過ごすのであれば、私はホームステイより今回のように自由時間が多いほうが「異文化に触れ、海外への抵抗をなくす」といった点ではいいと思う。逆に、私があまり実感することが出来なかった「語学力の向上」を重視するのであれば、ホームステイで2週間より長い期間の方で行う方が、耳が英語に慣れていき語学力の向上につながると思う。

最後に、来年このプログラムの内容が変わったとしても、海外に行く県大生が増えていけばいいなと切に思う。